

宮城県女川町に職員を派遣しています 新しく生まれ変わろうとしている女川の強みや良さ



上下水道局では平成23年8月から東日本大震災の被災地を支援するため女川町に職員を派遣しています。今回は、平成30年4月から31年3月まで派遣された水道技術課の鈴木技師のコメントを紹介します。

水道技術課 技師
鈴木 暁斗

平成30年4月から31年3月までの1年間、復興事業に係わる事務手続きや維持管理業務に携わりました。

女川町に着任して感じたのが、町の中心部は人びとの笑顔と活気にあふれ、海と山に囲まれた美しい町だということでした。さらに至るところで工事が行われており、新しい道路が開通するなど、日々町の形状が変わっていく復興の早さに驚かされました。

平成30年度は女川町復興計画最終年度ということもあり、事業も終盤に差し掛かっていく中で、水道工事も同様に配水施設の整備など急ピッチで工事が行われていました。所属していた建設課水道係は、私を含め3人で業務を行っており、お互いが協力しながら、通常の業務から災害復旧に関する事務手続きまで幅広く担当業務をさせていただきました。

私は女川町に派遣されるまでは、地名を聞いたこ



平成30年10月1日に開庁した新庁舎の女川町役場

とがある程度で詳しくは知りませんでした。しかし、実際に働かせていただく中で、人びとの力強さ、町を良くしていこうとする一人ひとりの意識の高さを身に染みて感じました。そのことが、同じように他市町村からの派遣職員にも伝わり相乗効果となり、一丸となって各事業に取り組む姿が、現在の「新しく生まれ変わろうとしている女川の強みや良さ」であると知ることができました。また、職員の方をはじめ、派遣で来ていることを知った住民の方などから感謝の言葉をいただくことも多く、大きな励みになりました。

1年間の派遣を通して、復興事業に携われたこと、また、様々な人と関わったことはとても貴重な経験であり、人としても成長させていただきました。今後は、この経験を活かし、川西市職員として日々精進し業務に励んでいこうと思います。

これからも女川町の復興と発展を願い違う形で支援を続けられたらと思っています。



復興へのまちなみ